

ん、お父さんが集ってスポーツやレクリエーションをやる場所としては、近くで手ごろでもあるし、となり近所の親近感も増すと思います。施設を作ろう、作ろうとしても簡単にはいきません。既存の保育園、幼稚園を利用することは、距離的にも、人数的にも望ましいと思えます。そういう意味からも幼稚園、保育園を社会体育に使用できるよう、作る段階で考慮してもらいたいですね。

福島 できるだけ小地区でやるのが、多くの人々がスポーツに親しむことになりそうですので、できるだけ町内ごとのスポーツをねらいとしたいですね。

松浦 さき程も言ったとおり、隣組のスポーツを考えたと思います。

司会 スポーツが非常に盛んになったのは事実で、早朝からランニングや散歩をやっている人々、夜間照明のある所は一日もあかないソフトボールの盛況、ゲートボールは勿論、ママさんバレーボールチームの増加、キャンプ場は今年の夏休みはどこも満杯、と言ったように私達がみたりきいたりする限りでは県民の大多数の人がスポーツに親しんでいるように感じますが、これを数字でみるとまだまだの感じがします。

昨年、二十歳以上の県民を対象に色々な調査をしましたが、スポーツが嫌いだという人はわずか二・七%、わからないと答えた人は七・三%で大部分の人はスポーツが好きなのですが、実際スポーツ

とか運動をやっている人を、月のうち七日以上やっている人となると二・八%しかいなく、とくにスポーツクラブや同好会に入って継続的にスポーツをやっている人となると、九%にしかすぎないという結果が出ています。勿論、市町村次第ではこの数字より多い所もあるわけですが、県全体から見ると、まだまだ多くの人々がスポーツとか体力づくりをやるうと思っても色々な条件でやれないでいるということだと思います。

しかし、スポーツへの気運というのは、今皆さん達のお話にあつたようにもりあがっていると思います。そこで、この気運も更にどうもあげられるか一つの課題と思えますが、

### 重要なスポーツへの動機づけ

伊藤 本当に今、さきさがみえてきたという程度ですね。この気運をさらに盛り上げるためには、永い目でみて、生涯スポーツの立場から、学校での体育の授業とか少年達のクラブとかの考え方を一度見直す必要があると思います。

幼稚園から小学校、中学校にかけて、身体を動かすことの喜び、そういうものの味をしめさせて置くことです。これには先生方ももちろん、ご両親の協力も必要です。

どうしてこんなことを言うかというのと、私は学生たちと接していて、教育に運動をする本当の喜びを与える努力が足

らなかったことを痛感しているからです。文部省の学校体育指導要領におけるセツト教育は子供たちに本当に身体を動かす喜び、スポーツをやる喜びを与え得ないで終わっています。

極端に言うとお逆効果です。鉄棒に下る痛さ、飛び箱に激突する恐さ、恥づかしさを味あわせ、ひどい時には「でけんだったら運動場一周してけえ」というように、楽しめるべき体力づくりが体罰に使われたりする傾向もあるわけですね。

それからこれは県に考えてもらいたいんですが、学校で体育施設を作る時には温水シャワーをつけて欲しいですね。体育の授業の後、汗をダラダラ流しているのは教育効果は上りません。さっぱりした気持ちで勉強をしたいですね。社会体育で一般が利用する時にもためになりませぬ。「運動すつとはよかばってん、後がすなぬ」と皆んながいますよ。

やはり、学校でた時に、社会人になった時に運動することの喜び、やる前の楽しさ、やった後の爽快感が残るように体育指導者は努力をしなければ大衆をスポーツに引きつけておくことはできないんじゃないかと思えます。

福島 私の所は保育園、幼稚園が五ヶ所ありますが、ここで夜、母と子、父と子のスポーツ教室を五ヶ年続けてやっています。これはスポーツのふれあいという事で、できるだけ小さい時からスポーツに親しませることが大切であると

いうこととまた平日頃お父さん、お母さんは子供達と一緒に遊ぶ機会も少くないですね。こういう機会にスポーツを通して親子のふれあいの場というようにことから始められたものです。スポーツ嫌いな人も子供につられて来ているうちに徐々に好きになってくる人もあり、気運は盛り上っていますよ。

### 県民総参加への対策

司会 スポーツへの動機づけとして、スポーツ行事などがあると思いますが、やりたくてもやれない人達をどうするかという問題があります。

ある日、自分の体力に愕然とし、これではということでスポーツへのきっかけをつかむ人はそれでいいわけですが、気がつかんでいる人をどうするかという問題もあります。

自分からすすんでやるきっかけをどうやってつかませるかということで、今後「スポーツ教室」「スポーツ相談」「体力テスト」などが重要な今後の課題にしたいと思います。

それから、やはりスポーツをやるためにはやることの楽しさというものがでてこなければ、自発性といったものはやる側にてこないと思います。そういう意味で行事のやり方にも工夫欲しいと思えますね。

ママさんバレーにしても、一部選手は一所懸命にやるけれども、大部分のお母

さんは玉拾い、「おもしろなかでっしゅ」と聞くと「おもしろなかです」「なんで出てきなはるか」ということなんですね。このへんのところいかがですか。

福島 私の所もスポーツ教室をやっていますが、それぞれのクラブにまかせています。例えば野球クラブは自分達のクラブの普及に力を入れるというやり方で教室を持つてけるわけですね。

それから、地区の運動会、ソフトボール大会などは、誰れもが参加できる形をとっています。場合によっては半強制的なこともありすが皆んな一緒にやる、このことがいいですね。負ければ、「来年年負けんごてやろう」ということで練習でもやるんです。地区単位とか末端部のスポーツ奨励が結局、全体の気運を盛り上げるようになるようです。



福島 さん

司会 スポーツ教室など県の施策のネライについてお話ししてください。  
川野 まずスポーツをやるという気持ちを起こしてもらおうというわけですね。

スポーツをやりたいけれども何をやっていいかわからないというように実際に活動の中に入ってもらうんです。そこでどんななスポーツをどの程度やったらいいかという人には「スポーツ相談室」というものがあります。スポーツテスト（体力診断テスト、体力測定）などの結果から何をやらせたいかということが指導されます。スポーツをやりたい人のためには「スポーツ教室」があります。ひとつの種目を継続的にやって、ある程度興味が出てくるまでやろうというものです。

スポーツ教室を卒業されますと自分のちのグループを作って継続的にスポーツを楽しんでいただくというように段階的に施策を考えています。今後、これらの施策によって相当数のスポーツクラブができてくるものと期待しています。

現在、スポーツ教室は百コースを超す申込みがっておりますし、一教室三十人としても三千人の方が教室でスポーツに親しんでおられることになりました。大いに参加して欲しいですね。

### 重要な学校施設整備

司会 多くの人々がスポーツを生活化するためには活動する場所が必要で、スポーツクラブが活動するためにはやは

りきまった基地としての施設が必要になるわけですね。

川野 スポーツ施設はこの十年急速に伸びてきました。多くの市町村では公共の運動場や体育館などが建設され、また施設の高度利用ということで夜間照明も数多く設置されてきました。昭和三十四年の調査では本県の体育施設中実に八五%が学校施設となっています。どうしても学校施設を使わざるを得ないんです。学校は昼間生徒が利用するようにできています。それを一般の方が使用すると

なると夜間照明、便所、倉庫など手を加える必要があるわけですね。夜間照明については、現在、県内のいたるところで非常な勢いで設置されています。

県民総参加のスポーツを推進していく上で学校施設の重要性というものは今さら申すまでもありません。できるだけ多くの方に利用いただけるよう整備をはかっていきたいと考えております。



▲県下で約5万人のお年寄りがゲートボールを楽しんでいます